

2024年8月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは9月14日(土)で、「小さなアリに注目!」です。ぜひご参加ください。9月1日(日)の8時30分から電話で申し込みを開始します。市民スタッフの皆さま、次回の下見は9月8日(日)です。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 ⇄ 博物館駐車場東側 ⇄ 手賀沼遊歩道 ⇄ 水の館
- 観察日時と天気：2024年8月10日(土) 10:00～12:00 曇り時々晴れ
- 参加人数：11名(大人6名、高校生3名、子ども2名)
- 市民スタッフ：3名(石原直子、北村章子、小泉伸夫)
- 鳥博職員：2名(岩本二郎・望月みずき)

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ、コムクドリ/スズメ科：スズメ/アトリ科：カワラヒワ/家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】ヤモリ科：ニホンヤモリ/トカゲ科：ヒガシニホントカゲ/カナヘビ科：ニホンカナヘビ/ナミヘビ科：アオダイショウ

【両生類】外来種：ウシガエル(アカガエル科 声)

【昆虫】バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ウスイロササキリ/カメムシ目：ホソヘリカメムシ、キマダラカメムシ、ヨコツナサシガメ、アブラゼミ、ミンミンゼミ(声)、ツクツクボウシ(声)、ニイニイゼミ(声)、ヒグラシ(抜け殻)/トンボ目：アオモンイトトンボ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ/チョウ目：モンクロシャチホコ(幼虫)、ヒロヘリアオイラガ、アメリカシロヒトリ(幼虫)、コスズメ(幼虫)、タケカレハ(幼虫)、オオスカシバ、イチモンジセセリ、ヒメジャノメ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメ(幼虫)、ベニシジミ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ/ハエ目：ヒトスジシマカ、アオメアブ/コウチュウ目：カブトムシ/ハチ目：モンズメバチ

【クモ類】アシナガグモ科：アシナガグモ/コガネグモ科：ゴミグモ、ナガコガネグモ/ジョロウグモ科：ジョロウグモ/タナグモ科：コクサグモ/ハエトリグモ科：アリグモの一種

【植物】草の花 アヤメ科：オオニワゼキショウ/ツユクサ科：ムラサキツユクサ/イグサ科：クサイ/カヤツリグサ科：ヤマイ/アカバナ科：オオバナミズキンバイ、ユウゲショウ/ナス科：ワルナスビ/ハエドクソウ科：ハエドクソウ/キク科：ヒメジョオン、ブタナ、セイヨウタンポポ

木の花 ミソハギ科：サルスベリ/ミカン科：コクサギ/キョウチクトウ科：キョウチクトウ

2024年8月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「いろいろな虫たちの“幼虫時代”」でした。熱中症対策として、室内での観察時間と野外での探策を組み合わせ実施しました。室内では、館内でトンボのヤゴとカのボウフラを観察した他、水の館でセミの抜け殻の識別に挑戦しました。野外では、親水広場で昆虫の幼虫を中心に探しました。ガヤチョウ、カメムシの幼虫が見られた他、昆虫以外ではアオダイショウ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビなどの爬虫類が見つかりました。



今月の案内人
岩本 二郎



①シヨウリョウバッタの成虫。



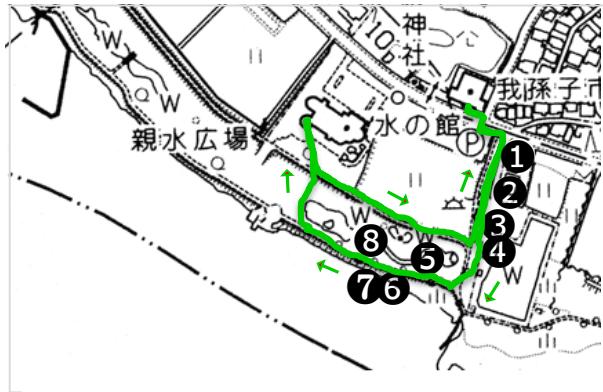
②アリが群がっていた、ムラサキツバメの幼虫。



③アオダイショウの幼蛇。



④シオカラトンボのメスを捕食する、アオメアブ。



歩いたルートと観察した生き物



⑤ヒロヘリアオイラガ成虫の交尾。



⑥ニホンヤモリ。



⑦ニホンカナヘビ。



⑧アメリカシロヒトリの幼虫。

今月の鳥 コムクドリ (スズメ目ムクドリ科)

日本には夏鳥として飛来し、本州中部から北海道、南千島で繁殖します。草原と林が混じる場所で見られ、本州中部では標高の高い場所の牧場など、北日本では河畔林のある河原や河川敷の畑、林のある集落などで見られます。越冬には東南アジアのボルネオ島北部周辺まで南下します。手賀沼周辺では渡りの時期の通過が見られ、ムクドリの群れの中にわずかに混じっていることがあります。声はムクドリとよく似ているため、探すときは1羽ずつ目で見確認します。雌雄で姿が異なり、メスは顔に模様が無いのに対し、オスは首から頬にかけて茶色い大きな斑があります。今の時期、ムクドリの群れを見かけたら、ぜひ探してみてください。



オス



メス